

公立大学法人兵庫県立大学 令和元年度に係る業務の実績に関する報告書(概要)

教育研究水準の向上に資するため、大学の教育、研究、社会貢献及び管理運営の状況について、自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する。

教育 ～国内外で自立し活躍する次代を担うリーダーを育成する大学～

【No.10 地域の特徴を生かした連携教育の推進】

◎ 社会情報科学部では、プロブレム・ベースド・ラーニング(PBL)演習において、県内にスーパーを展開する企業と連携し、消費者購買履歴データを活用して実際の店舗における売場改善の提案を行い、根拠に基づく学生の分析力や提案力が向上したことに加え、企業からも学生の取組に対し高い評価を得た。

【No.26・27 社会の変化に的確に対応した大学院改革等の検討】

○ 経済・経営系大学院及び理学系大学院は、文科省への事前相談の結果、届出による設置「可」となり、今年4月に設置届出を行った。また、情報系大学院についても、専攻名称の再考を踏まえて4月に改めて事前相談を行う等、令和3年4月の一体的な大学院改革に向けて適切に準備を進めた。

【No.28 国際商経学部・社会情報科学部の開設と充実】

○ 国際商経学部グローバルビジネスコース(GBC)の外国人留学生40名の受け入れや、令和2年9月入学予定の外国人留学生の確保等、新学部の運営体制の確立を図った。また、2つの新学部の開設に伴い、国際学生寮棟及び情報科学研究棟を新たに整備し、学生にさらに質の高い学修・研究環境を提供した。

研究 ～次代を切り拓く先導的・創造的な研究を推進する大学～

【No.53 金属新素材研究センターを拠点とした新素材の研究開発】

◎ 電子ビーム型及びレーザービーム型金属用3Dプリンタ等を活用し、金属新素材及び3D造形技術の開発に取り組み、企業の相談・試作等に対応した。また、金属関連の各分野の企業等による「ひょうごメタルベルトコンソーシアム」を立ち上げ、82社・14団体が参画し、セミナー・講習会等を開催した。

【No.56 多様な研究基盤を生かした先導的な研究の推進】

◎ シミュレーション学研究科では、ポスト「京」研究開発枠に係る理化学研究所との共同研究「マクロ経済シミュレーション」において、大規模計算を担当したほか、次世代都市モデルの構築に関する研究では、都市モデル構築のための新たなモデル化手法の開発を担当する等、同所との共同研究を推進した。

【No.73 県内各地の地域資源を活用した研究の推進】

○ 自然・環境科学研究所では、特定鳥獣の個体数推定、被害防止、行動分析等の調査研究を進め、兵庫県「特定鳥獣保護管理年度別事業実施計画」の施策立案を支援した。

社会貢献 ～兵庫の強みを生かし、地域の未来の活力創出に貢献する大学～

【No.81 ニュースバル等の産業利用・産学共同研究の推進】

◎ ニュースバルを活用して本学が開発した極端紫外線(EUV)リソグラフィ技術が、令和元年度よりスマートフォン向け7nm世代の半導体チップ量産の基盤技術に用いられていることに加え、さらなる微細加工技術が要求される半導体分野を中心に、17社の企業と共同研究に取り組んだ。

【No.83 県立病院等と連携した看護ケアの質的向上】

◎ 県立病院との連携を強化し、新たに県立病院の看護師42名が8科目の技術演習の支援を行った。一方本学からは、7つの病院で看護研究を支援し、看護ケアの質的向上に寄与した。

管理運営 ～戦略的経営・効率的経営・自立的経営の推進～

【No.88 戦略的な法人経営体制の整備】

◎ 理事長が順に各キャンパスで行うキャンパスシンポジウム、著名な講演者やパネリストを招いた国際シンポジウム、看護学部と減災復興政策研究科の連携によるシンポジウムという3つの新たなシンポジウムを開催し、国際シンポジウムの詳細が日本経済新聞で全国に発信される等、本学のプレゼンスを高めた。

【No.101 ふるさと納税制度とも連携した基金の充実】

◎ グローバルビジネスコース(GBC)の外国人留学生を支援するため、平成30年度末に新たに設置した「GBC留学生支援基金」について、県内企業を中心にたくさんの協力をいただき、約5,000万円の寄附を得て、GBCの外国人留学生に対するスタートアップ奨学金事業に充当した。

小項目評価結果の状況：全体として年度計画を順調に実施している

小項目名	元年度	小項目名	元年度
教育研究等の目標達成のためにとるべき措置		管理運営の目標達成のためにとるべき措置	
1 教育に関する措置		1 戦略的経営の推進に関する措置	
(1) グローバル社会で活躍できる人材の育成	b	(1) 社会ニーズの変化に対応できる体制の構築	b
(2) 地域のニーズに応える専門人材の育成	b	(2) 県立大学の魅力発信と知名度向上	b
(3) 高度な専門性を有する人材の育成	b	(3) 教育研究基盤の計画的な新規投資	c
(4) 総合大学の強みを生かした幅広い知識を有する人材の育成	b	2 効率的な経営の推進に関する措置	
(5) 人材育成に向けた教育システムの充実	b	(1) 経営資源の重点配分	b
2 研究に関する措置		(2) 安全・快適な環境の計画的整備	b
(1) 高度な研究基盤を活用した先端研究の推進	a	3 自律的経営の推進に関する措置	
(2) 地域資源を活用した研究の推進	b	(1) 財務運営の改善	a
(3) 兵庫の先進的な取組を活用した研究の推進	a	(2) 自己点検・評価及び情報の提供	b
3 社会貢献に関する措置		(3) コンプライアンスの推進	b
(1) 未来社会を先導する産学官連携の推進	a		
(2) 大学が有する資源の地域社会における活用	a		
(3) 次世代の兵庫を担う人材の県内定着など地域の期待に応える取組の推進	b		

実績報告書

年度計画の19の小項目ごとに、下記の基準をベースとして総合的に検証し、4段階による評価を行った。

区分	達成度	判断の基準
a	計画を上回って実施	◎が25%以上あり△と×がない
b	計画を概ね実施	◎が25%未満であり△と×がない
c	計画をやや下回っている	△が1つ以上ある
d	計画を大幅に下回っている	×が1つ以上ある

取組事業 (110事業)

年度計画に掲げた110の事業ごとに取組状況を検証し、下記の4段階による評価を行った。

区分	達成度	判断の基準
◎	計画を上回って実施	達成時期・内容が計画を上回って実施(達成度100%超)
○	計画を概ね実施	概ね計画どおり進行(達成度90%以上)
△	計画をやや下回っている	計画に対して時期・内容がやや劣っている(達成度70%以上)
×	計画を大幅に下回っている	計画に対して時期・内容が大幅に劣っており、改善を要する(達成度70%未満)